

2025年3月13日

令和6年度知財金融事業最終報告会

長野県信用組合による知財金融の取組み

長野県信用組合
専務理事 林 智成



< 目 次 >

1. 長野県信用組合のパーパス
2. 中小企業の経営資源としての知的財産
3. 長野けんしんモデル
4. 2019年から継続実施の『知財座談会』
5. 連携事例

1. 長野県信用組合のパーパス

長野県信用組合の概要

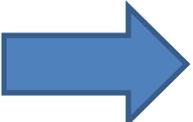
商号	長野県信用組合
所在地	長野市新田町1103番地1
出資金	10億23百万円
組合員数	12万人
預金残高	9,969億円
貸出金残高	3,373億円
自己資本比率	21.01%(バーゼルⅢに基づく国内基準)
職員数	708名
店舗数	52店舗
海外拠点	1か所(シンガポール駐在員事務所)
営業地域	長野県一円

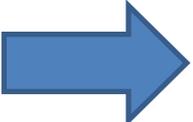
(令和6年9月30日現在)

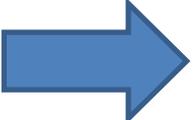


 **けんしん** **BANK**
THE NAGANO-KEN SHINKUMI BANK

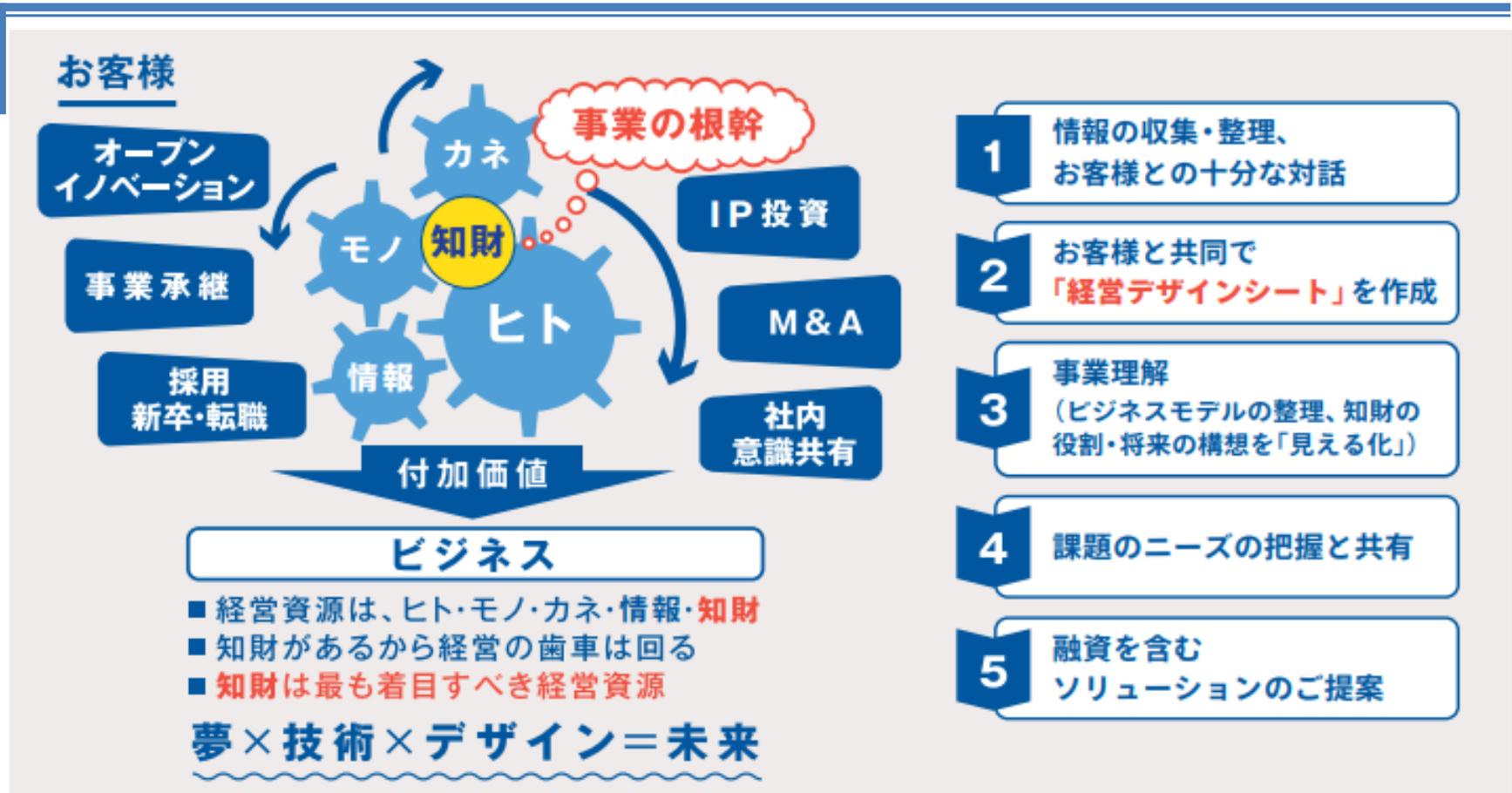
**「地域の魅力をプロデュースし、
地域社会の新たな価値創造に尽くします」**

 パーパス実現にはお客さまの事業理解が重要

 事業理解のために「経営デザインシート」を活用

 更なる事業理解のために「知的財産」に着目

2. 中小企業の経営資源としての知的財産



私たちは、特許や商標といった「知的財産権」のみならず、ブランドやノウハウ、技術力や顧客ネットワークまで含めた企業の強みを、広義の「知財」として捉えています。

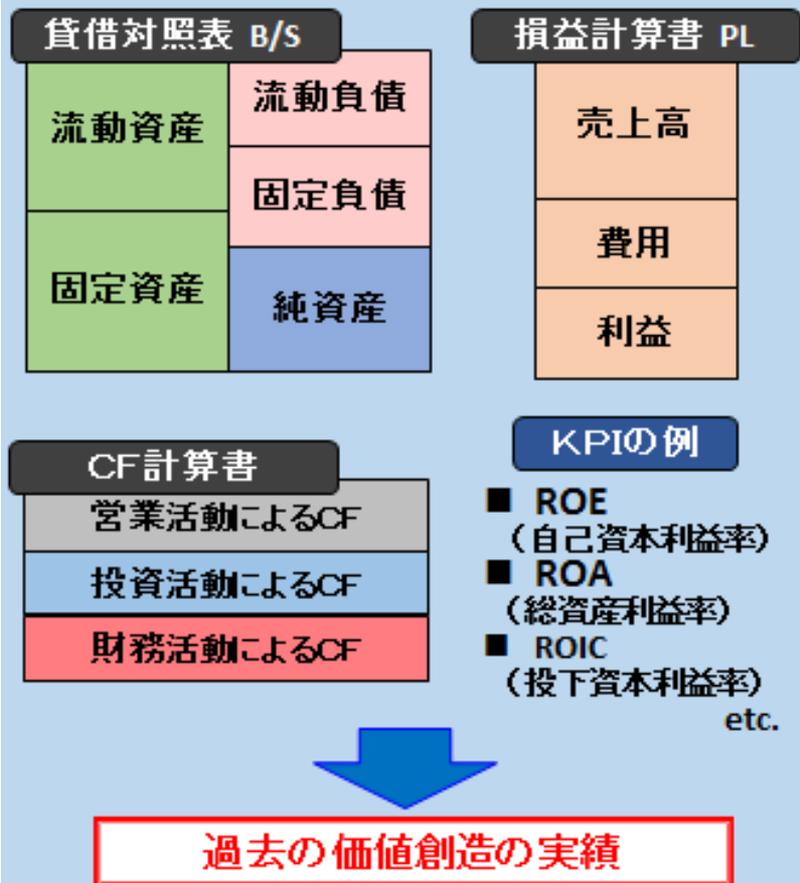


参考:中小企業のための知的資産経営マニュアル(独立行政法人中小企業基盤整備機構)

財務情報と非財務情報

財務情報

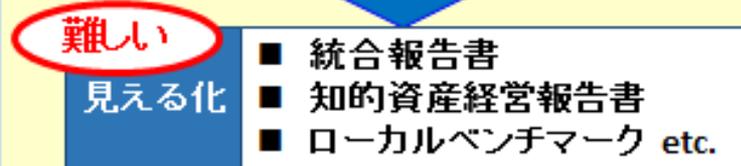
■ 見えやすい資産(有形資産)



非財務情報

■ 見えにくい資産(無形資産)

- ・ 人材/組織力
- ・ 技術/ノウハウ/技能
- ・ ビジネスモデル/経営戦略
- ・ 知的財産権
- ・ 企業文化/経営理念/経営ビジョン
- ・ 顧客とのネットワーク
- ・ ESG情報 etc.



非財務情報開示の課題 (※注)

- 「非財務情報を将来の企業価値と結びつけて開示・説明すること」: **62.1%**
- 「本業のビジネスと非財務情報とを関連付けること」: **54.3%**

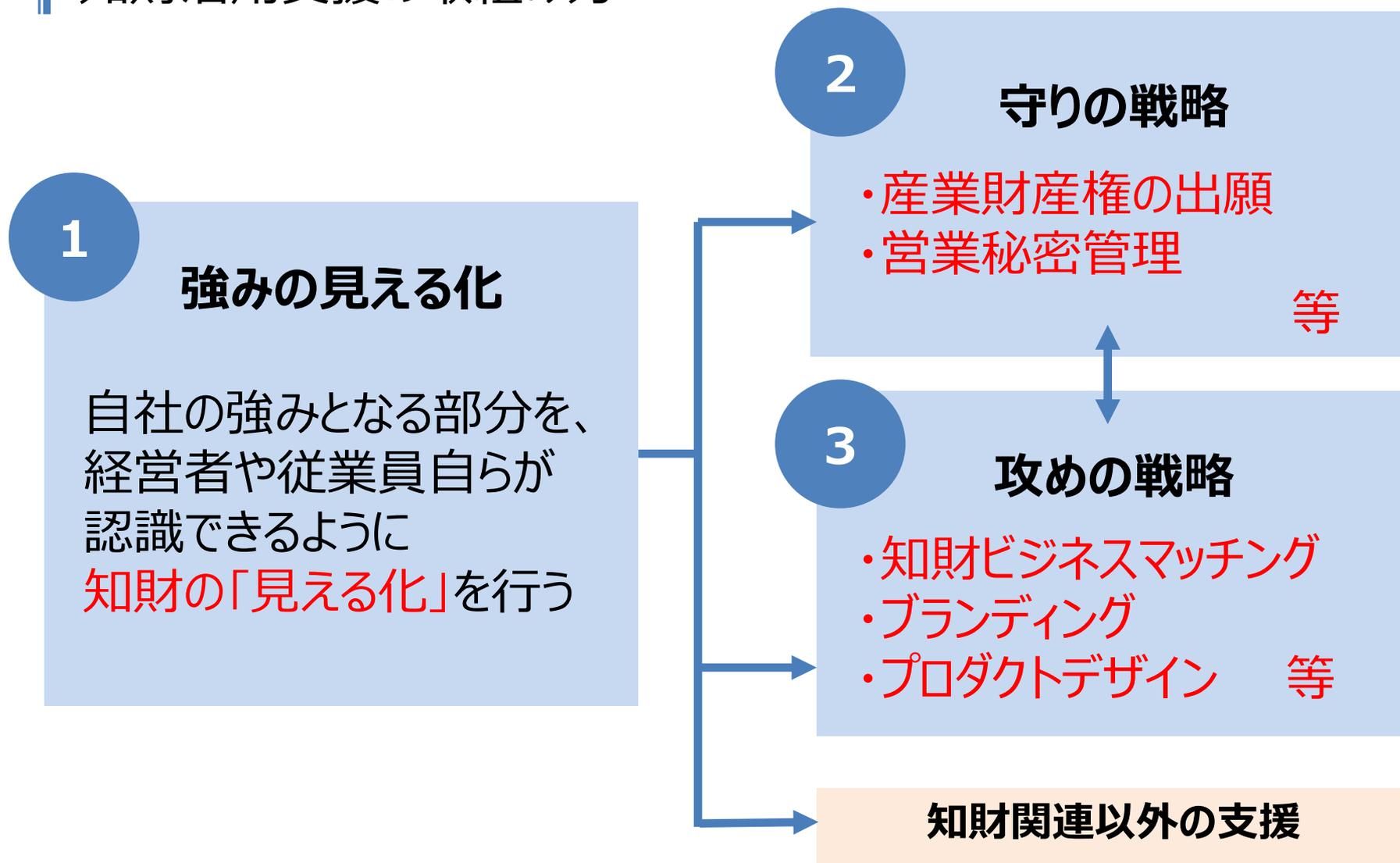
↓

将来の価値創造の能力

(※注の箇所) 「新時代の非財務情報開示のあり方に関する調査研究報告書」(平成30年3月)より

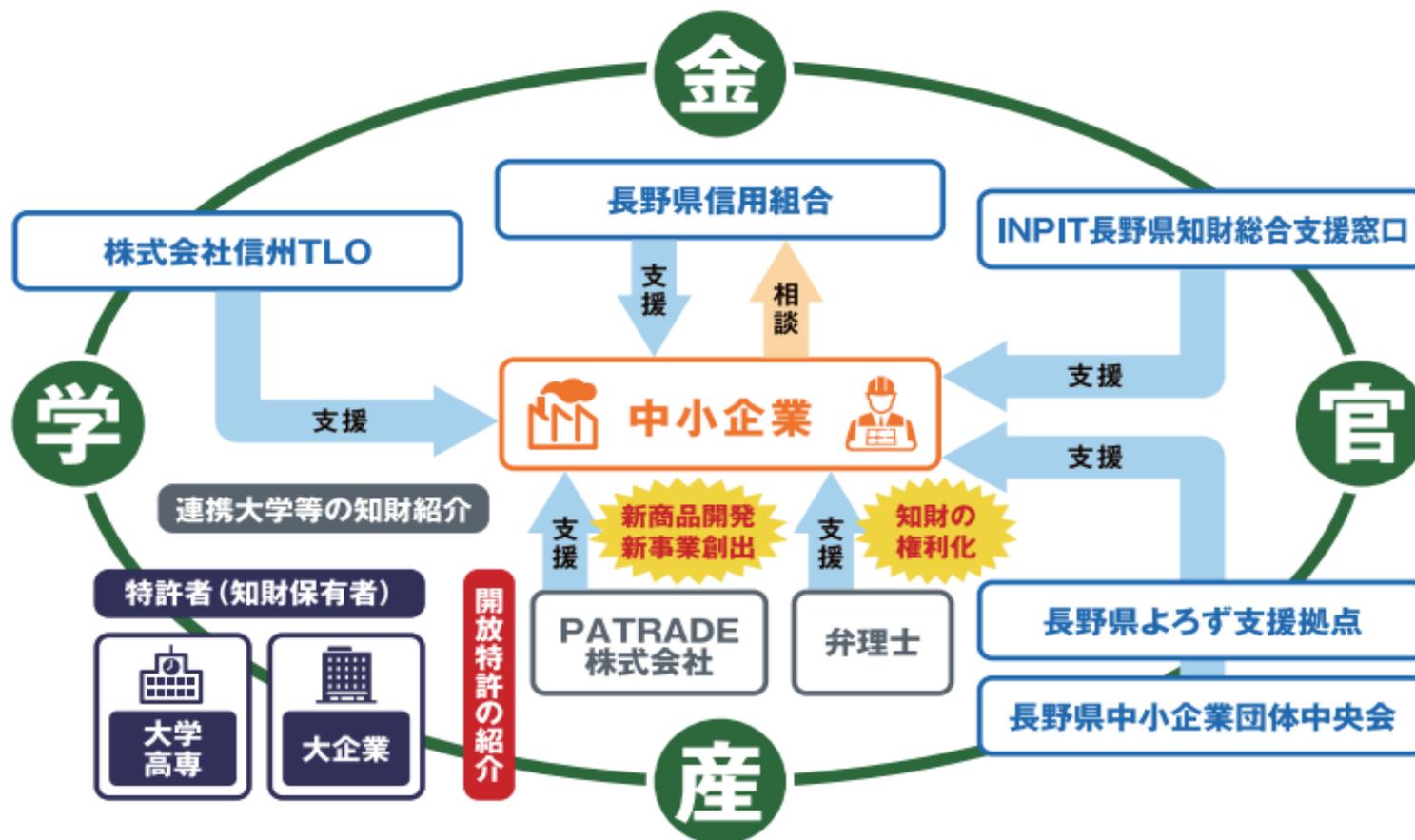
4

知財活用支援の取組み方



3. 長野けんしんモデル

「長野けんしんモデル」



産学官金プラットフォームを形成し、それぞれの専門分野に応じて連携

知財を切り口とした様々な本業支援

知財マッチング

開放特許の活用による新商品開発や
既存技術課題の解決

権利化・知財戦略

特許・商標等の出願手続きや、事業成
長のための知財戦略の策定

ブランディング

商品やサービスの開発について、ブラ
ンド育成や販売戦略のためのコンセプ
ト作り

先行技術調査・侵害対応

商品開発にあたっての先行技術調査、
他社からの警告書への対応

営業秘密

営業秘密管理や営業秘密を活用した
オープン&クローズ戦略の検討

標準化

規格の統一による品質の確保及び新
市場の創造

海外展開

海外企業との契約、権利の外国出願の
支援

デザイン

商品・サービスの魅力を高め、付加価
値を向上させるためのデザイン支援

社内体制整備

管理規程や発明規程の構築、相談で
きる外部専門家との連携体制の構築

4. 2019年から継続実施の『知財座談会』

知財座談会



複数のお客さま、弁理士、当組合職員がグループに分かれて、お客さまの経営課題について知財の観点で話し合う知財座談会を、日本弁理士会東海会との共催により令和元年より継続して実施しています。

知財座談会

主催  × 

けんしんBANK & 日本弁理士会東海会コラボ企画

けんしんBANK知財座談会

中小企業の皆さまの知財経営のヒントとして、特許・商標(ブランド)・意匠(デザイン)・営業秘密・ノウハウといった知的財産を事業に活かすための基調講演および座談会(事業者さまと、日本弁理士会東海会の弁理士、けんしんBANK職員の三者)を開催します。

日時 **令和6年 11月 13日(水) 14:00~16:30**

※グループごとに実施する座談会の進行度合いにより、上記時刻前に終了となる場合があります。

会場 **長野県信用組合 本店 2階大会議室**

〔セミナープログラム〕

□ 第1部 基調講演 (40分)

講師：日本弁理士会東海会 知財金融対応委員会 委員
弁理士 朝倉 美知氏

演題：「ブランドについて話をしよう—大切なブランドを守るために—」

□ 第2部 グループ単位による座談会 (90分)

テーマ：「知的財産を事業に活かす」

※グループ分けを行い、事業者さま・弁理士・けんしんBANK職員による座談会を実施します。

◎交流会 17:00~ 会場：長野ホテル国際21 会費：3,000円
終了後、事業者さま、弁理士、けんしんBANK職員を交えた交流会を開催します。セミナーお申込みの際に出欠席のご回答をお願いします。

参加対象 長野県内で事業を営む経営者さま / 知財担当者さま

お申込み方法等は、裏面をご覧ください

令和6年度の参加者

○事業者30名

○弁理士21名

○職員33名

その他関係者含め合計97名

6グループに分かれてディスカッション

本会で課題を発見した事業者様には、

後日弁理士やINPITと連携し、

商標出願等の支援を実施

5. 連携事例

INPIT長野県知財総合支援窓口との連携

支援概要

抽出した課題について専門家及び金融機関とともに改善支援を行いました。支援内容は、①企業ブランドの商標登録、②婦人服の素材の新名称の見直し（他者権利との抵触回避）、③1,000 を超える衣装プリント柄の保護、④プリント柄の開発における海外アーティストとの契約、⑤海外製造における製造委託先との契約、⑥レストランで提供する食品製法の秘密保持、⑦社員の秘密保持の徹底です。これに対応する弁理士、弁護士（国内）、弁護士（海外契約）等の専門家を派遣し支援を行いました。

支援成果

多面的に支援を行った結果、①ブランド「BARAKURA」の保護、②商品名称抵触の事前回避、③日付公証による先使用权の確保、④⑤海外との契約による秘密保持・模倣防止、⑥都内大手ホテルと食品レシピの契約締結、製造委託先と契約締結による製造の効率化等を図ることができました。また、これらの支援を通じて、経営における知財の重要性を同社に認識していただくことができました。



企業コメント

当社は独自性を重視した経営や商品開発を行ってききましたが、他社との取引や交流が不十分でした。知財支援により、自社の宝物を守りながら業務の拡大を図れることを確認できました。知財戦略は企業の基本であることが理解できましたので、今後は経営の中核に据えて取組みたいと考えています。

★令和6年度は12月末時点でINPITをはじめとする知財専門家に78件相談

関東経済産業局 新やる気補助金事業

中小企業等知的財産活動支援事業費補助金（新やる気補助金）

○令和4年度

「長野けんしんモデル」産学官金連携プラットフォームを確立

経営デザインシート作成セミナーに102社参加、6社に知財マッチング支援

○令和5年度

知財活用の更なる普及、個別支援の深掘り

6社に知財マッチング支援、9社に知財ブランディング（権利化）支援

○令和6年度

「長野けんしんモデル」の自走化、「知財アンバサダー」育成

5社に知財権利化支援、4社にブランディング支援、5社に知財マッチング支援

知財ビジネスマッチング



(有)BIG WAVE

富士通(株)やトヨタ自動車(株)の開放特許を活用し、
睡眠抑制効果の期待できる「香るピンバッジ」を開発
商標登録や展示会出展も支援



(株)信栄食品

(株)ホソダSHCの「ジャワしょうが」に係る特許を活用し、
認知症予防効果の期待できる餃子を開発
マスメディアを呼んだ試食会の場等も提供

⇒両案件とも当組合の運営するクラウドファンディングサイト「Show Boat」で、
テストマーケティングを実施、いずれも目標金額の調達に成功しました。

その他取組み

デザインサポートながのを活用した支援



地域資源製品開発支援センター（デザインサポートながの）では、信州発のブランドづくりを支援しています。デザインの観点から、お客さまの事業のブランド力向上を図るため、商品パッケージやホームページデザインなどの制作を支援しました。

展示会出展による知財活用の普及活動



諏訪圏工業メッセ、産業フェア in 信州、上田地域産業展に出展しました。当組合の知財活用支援がきっかけとなって開発されたお客さまの商品を展示するなどして、知財活用の手法やメリットを広く来場者に発信しました。

知財マッチングについての情報発信



長野県等と共催したオープンイノベーションフォーラムにおいて、当組合の取引先である開放特許のライセンサー企業が講演を行い、開放特許の活用によるオープンイノベーションの推進や地域経済の活性化について情報発信を行いました。

特許庁や関東経済産業局の知財事業も積極的に活用しています。

令和6年度は「知財ビジネス報告書」2先について取組み。

（「知財ビジネス評価書」時代から数えて累計10社以上）

ご清聴ありがとうございました。

